

16-第14-A⑩-2 一般演題

10月16日(木) 13:00～14:00 第14会場 ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING3階 メトロホール東
全般的なケア⑩ 【座長】田中 志子（介護老人保健施設大誠苑）

第1群：101 入所

第2群：204 工夫・新たな取り組み

第3群：A3302 全般的なケア ケアの在り方

「行ってきます」

家庭での団らんを支援して

介護老人保健施設 リハビリタウンくじ

畠山 明美、菊池 愛、坂本 留美子

家族が自宅への外出を誘ってもかたくなに拒否する利用者がいた。本当の心の内を探り、職員が付添うことで本人の不安を取り除きながら、自宅で皆が楽しく過ごすことができた事例。

【はじめに】老健施設に入所されている利用者様の家庭環境、身体状態は様々です。リハビリ目的、または看とりの方もおり多様化しています。それに合わせて職員の対応の幅の広さが求められることを経験しました。今回は、家族が「家に連れて行くから、1回帰ってこないか?」と誘ってもかたくなに首を横に振る利用者様を、職員が付添い自宅で過ごした事例を報告します。

【事例紹介】O氏 86歳 女性 要介護3、障害老人自立度 B2、認知症自立度 3B

既往歴 脳出血 脳梗塞 H21年車椅子生活になり、同年5月長期入所となる。

【経過】Oさんは毎朝ヨーグルト1個を食し、夫はヨーグルトを切らさないよう届けてくれます。娘は往復4時間かけて仕事の休日を利用し、週1回、定期的に面会に来られ、長男夫婦は孫を連れ面会に訪れます。このように家族の關係に恵まれていると言えます。

これまで、お盆、お正月に家族は「息子が車に乗せて行くから帰らないか」と本人に話していましたが、「帰りたくないと言っている」と笑いながら夫は帰って行きます。何度か誘っても応じない為、家族はその話しはしなくなりました。始めの疑問として、「せっかく家族が連れて行くと言っているのになぜ帰らないのだろう、帰りたくないはずはない」と本人に確認すると、手でオムツの辺りをポンポンと叩きました。自分の介助を家族にさせる訳にはいかないという気持ちがあるのだろうか、家族に迷惑をかけたくない思いで帰らないのであれば、なおさら一度、家で皆で過ごしてほしい、これからもっと歳をとって帰る事ができなくなってしまう前に、是非家に帰る機会を作りたいと考えました。

「私達が付いて行くから家に行ってみましょう」と本人に提案し、普段接している職員が同伴することで家族の手を煩わせることがないと安心され「行く」と決心したように頂きました。

H25年12月26日、計画が現実になり職員3人と長男の嫁が同行しました。自宅にはM市から娘が来ており、にこやかな表情で迎えてくれました。車椅子で自宅に入り、リビングのソファに座らせると、普段言葉が少ない方ですが、ハッキリした口調で昔の事、孫、子供達の話しを詳しく語り出し、同行した職員のKさんは「こんなに喋れる人だったんですか?」とびっくりするくらいだったのです。喋りすぎて喉が渇き「水、持って来て」と3回命令口調、さすがこの家長と伺い知れるような場面でした。

夫は照れながら嬉しそうに、少し涙ぐむ姿が印象的でした。私達はリビングにあがり出されたお茶、リンゴ、お菓子を頂きながらOさんを終始見守りができました。夫が「寝ていた部屋を見て行け」と、寝室に入るとクローゼットから施設に持って行く服を自分で選び、仏間では「私はまだまだ長生きします」と声を出して仏様を拝み、2時間自宅で過ごすことができました。

帰りの玄関前でOさんは予想外の言葉を発しました。「行ってきます」と家族に挨拶をしたのです。全く考えていない言葉だったので聞いた瞬間は衝撃を受けました。

帰り道は、実家や兄弟の家を通ってほしいと希望されその道で帰りましたが、外を見て話しが尽きず、車内は遠足のような雰囲気になっていました。1回きりになっても良いと思いい役割を果たした気がして、次の予定は未定のまま過ごしていたところ、「また行きたい」と本人から家族に言ったのです。これは職員の支援があると思いい安心して自宅への外出を希望されたのです。

【考察】今回、この介入がなければ生きている間、自宅に帰る事がなかったかもしれません。「施設の職員が自宅でも介護します、家に行ってみましょう。」の言葉に家族は最初は戸惑いがあったかもしれませんが、施設で車椅子を押してくれるように家でも介助をしてくれることで自宅に帰る決心ができたのです。家族に煩わしい事をさせたくない、という思い

はOさんらしいOさんの性格と考えられます。

実際、自宅の様子を見させて頂いて、元気な頃はこの台所で家族の食事を作っていたんだなと生活が想像できました。また、夫がここで一人で生活している状況、妻にいつもヨーグルトを届けてくれる、それが何年も続いていることにも、感謝の気持ちが一層強くなり家族の姿も浮かぶようになりました。

【まとめ】

「ばあちゃん、1回くらい、家に帰ろう」「いや、行かない」

「Oさん、家でも私達が見てあげるから、行ってみる?」「行く」

利用者様に提案してもすぐに乗ってこないのは当然です。そこで諦めて「嫌だって言っているから」とあっさり終わらせないで、この人にどのような支援がしたいのか、何が弊害になっているのか、本当の気持ちを探る作業が必要でした。

【終わりに】「行ってきます」という挨拶に込められたOさんの気持ちを考えた時、今回の支援経過が今後のOさんの人生が輝くきっかけとなると信じています。

私達は施設内での日常生活のお手伝いをしています。これからもさらに生活のみならずその方の人生、家族に寄り添った支援をしていきたいです。